

ハスモンヨトウ情報第2号 (ダイズ、野菜類、花き類)

令和7年10月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ダイズほ場で発生量がやや多い状況です。

1 発生状況

9月下旬にダイズほ場で実施した巡回調査（県内9地点18ほ場）において、寄生株率は8.33%（令和6年34.11%、令和5年28.39%）で、過去10年間で3番目に高い状況です。

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける直近1か月の成虫の総誘殺数は、弥富市で多く、安城市と西尾市でやや多い状況です。（図）。

9月下旬にキャベツほ場で実施した巡回調査（県内10地点20ほ場）において、寄生株率は0.00%（平年0.97%、前年1.45%）で、やや少ない状況です。

露地野菜ほ場に設置したフェロモントラップにおける直近1か月の成虫の総誘殺数は、碧南市のニンジンほ場で多いですが、豊橋市のハクサイほ場や田原市のキャベツほ場では平年並～少ない状況です（図）。

2 今後の見込みと防除対策

名古屋地方气象台9月25日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、本種の発生に好適な条件が予想されます。今後もほ場へ飛来することが予想されるため、薬剤防除後もこまめにほ場を巡回し、発生状況に注意しましょう。

齢の進んだ幼虫（写真1）には薬剤効果が低下するため、若齢幼虫（写真2）のうちに防除しましょう。なお、一部のジアミド系殺虫剤等（他系統の一部の薬剤含む）に対し感受性の低下を確認しているため、薬剤選択は指導機関に相談するとともに、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。



写真1 ハスモンヨトウ中齢幼虫



写真2 ハスモンヨトウ卵塊及び若齢幼虫

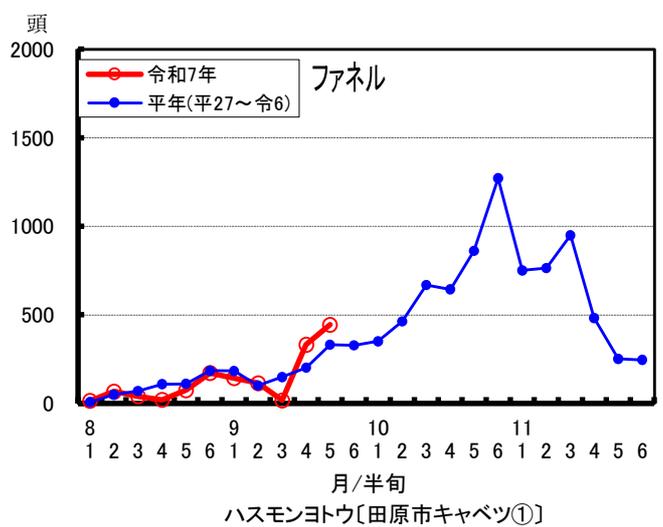
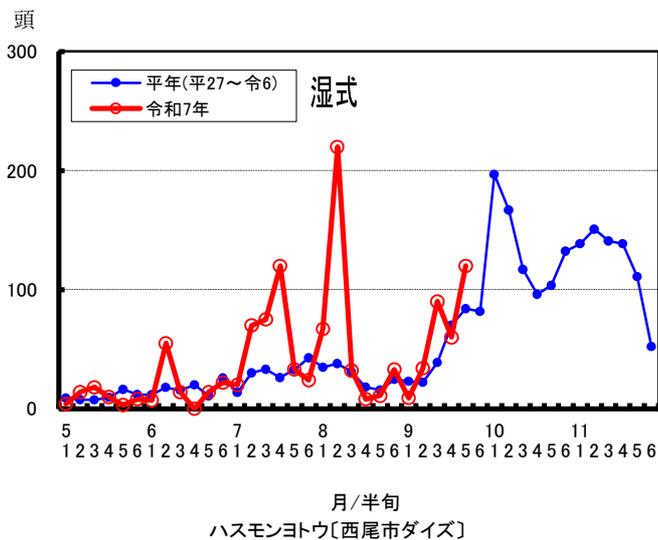
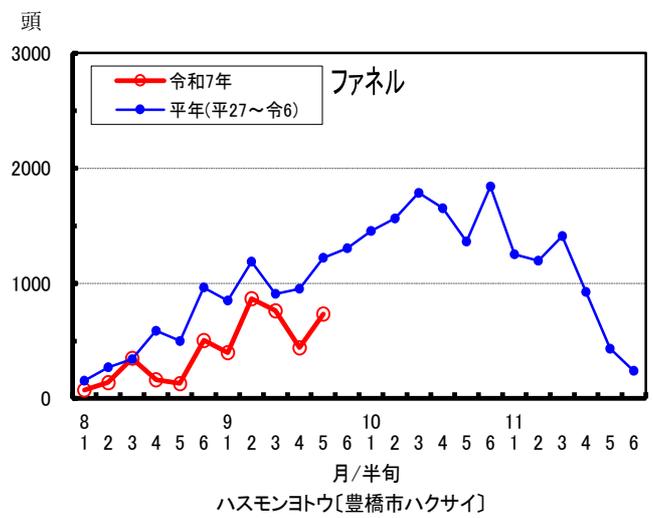
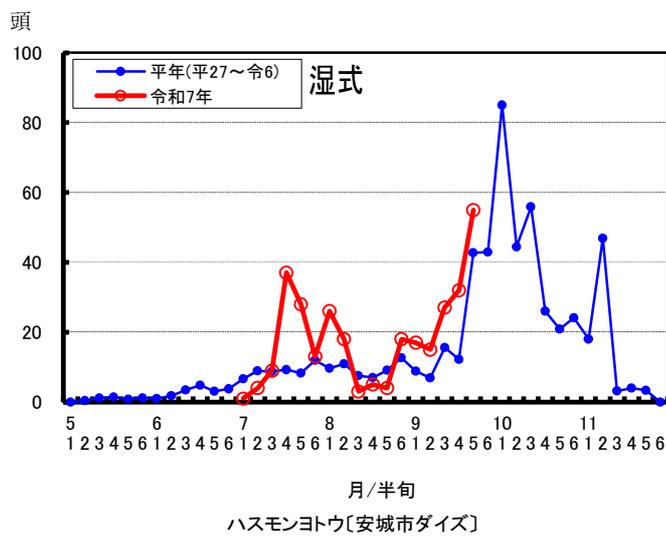
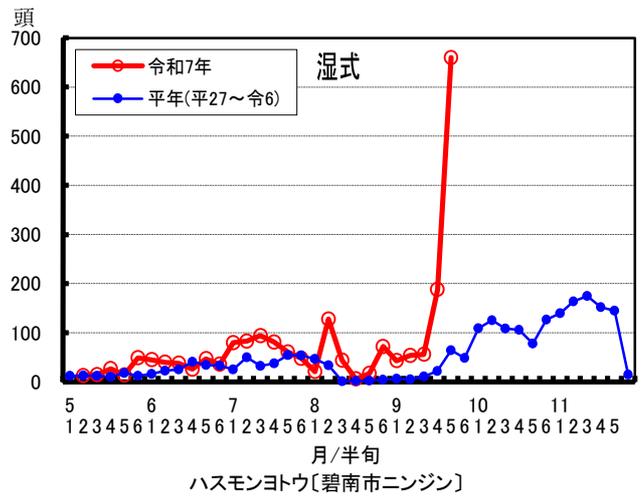
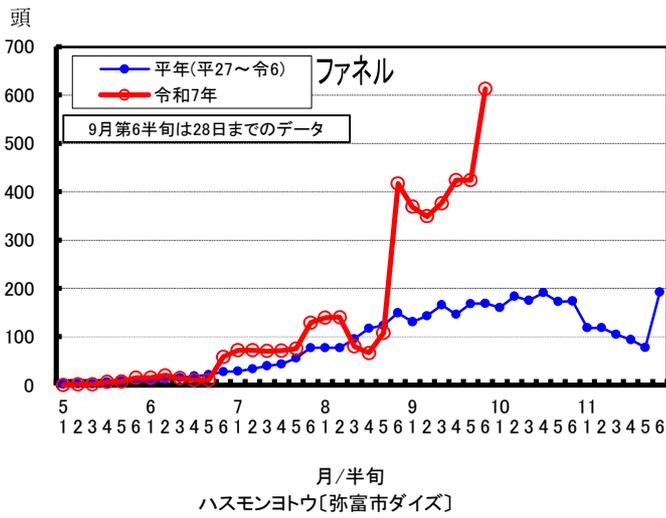


図 フェロモントラップにおける成虫の誘殺数（単位：頭）